

基本方針 2 公私の切磋琢磨により高校の教育力を向上させます (1) 公私が力を合わせて高校の教育力向上をすすめます

【基本的方向】

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中にあって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。

【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名 (事業名)	実施内容
①	高校の授業料無償化等 (公立高等学校授業料無償化の実施 <参考資料 P149>) (私立高等学校等生徒授業料支援補助金 <参考資料 P149>) (公立高校生等奨学給付金事業 <参考資料 P149>) (私立高校生等奨学給付金事業 <参考資料 P149>)	公立高等学校については授業料不徴収制度及び就学支援金制度を実施するとともに、私立高校等については授業料無償化制度を実施した。 平成 26 年度以降入学の 1・2 年生を対象に、市町村民税所得割額が非課税である世帯に対して、授業料以外の教育費の負担軽減を目的として、奨学のための給付金を支給した。
	奨学金制度の運営・運用 (公益財団法人大阪府育英会における奨学金事業 <参考資料 P150>)	(公財) 大阪府育英会における奨学金事業について、中学生や教職員に対して制度を周知するとともに、給付型奨学金の事業資金の確保のため寄附金を募集した。
②	府立高校における広報活動の充実 (広報強化推進事業 <参考資料 P151>)	各府立高校において、学校説明会を実施するとともに、府教育委員会では、大阪府内全ての公立高校を集めた進学フェアを開催した。
	府立高校における広報活動の充実 (「公立高校ガイド」の作成 <参考資料 P151>) (高校入試情報提供事業 <参考資料 P151>)	府内全公立高校の情報を掲載した「公立高校ガイド」を府内の全公立中学 3 年生に配付するとともに、学校情報を web で検索できる「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ (映くなび)」を運用した。
	私立高校における学校情報の公表・公開 (<参考資料 P151>)	情報を公表していない学校については、経常費補助金を減額して配分した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
③	英語コミュニケーション能力の育成 （骨太の英語力養成事業 <参考資料 P152～153>） （英語教育推進事業 <参考資料 P152～153>）	高校3年間で、英語4技能（聞く・話す・読む・書く）を、英語圏の大学で修学できるレベルに引き上げるため、対象の府立高校17校のうち、平成27年度から10校でSET（スーパーイングリッシュティーチャー）によるTOEFL iBTを扱った授業を導入し、他の7校においては28年度から同じく導入するためSETの採用やシラバスの作成を行った。 また、英語力の底上げのため、在籍校によらないオール大阪の視点で、意欲ある生徒に対する「聞く・話す」能力の鍛錬を行うとともに、英語科教員の指導力を高めるプログラムを実施した。
	キャリア教育の充実 （キャリア教育支援体制整備事業 <参考資料 P154>）	就職希望者が多い学校（平成27年度 府立34校、私立5校）を支援するため、就職内定率向上に実績のある「就職支援コーディネーター」等を配置し、生徒一人ひとりの状況を踏まえたキャリア教育を実践した。

【指標の点検結果】

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	点検結果
○指標 7 昼間の高校への進学率	計画進学率をめざす (93.9%)	93.1% (H25 年度選抜)	93.6% (H28 年度選抜) [H26 年度実績 93.4% (H27 年度選抜)]	○ 平成 27 年度実績は、計画策定時の実施を 0.5 ポイント上回った。
○指標 8 学校情報の公表状況	いずれについても 100%をめざす	府立高校 財務情報 100% 学校教育自己診断 83.8% 学校協議会 87.0%	府立高校 財務情報 100% (注1) 学校教育自己診断 100% 学校協議会 100% (H26 年度実績 学校教育自己診断 85.7% 学校協議会 97.4%)	◎ 平成 27 年度実績は、いずれも目標値 (100%) を達成した。
	いずれについても 100%をめざす	私立高校 財務情報 78.1% 自己評価 74.0% 学校関係者評価 49.0%	H26 年度実績 私立高校 財務情報 82.3% 自己評価 62.5% 学校関係者評価 75.0% (H25 年度実績 私立高校 財務情報 81.3% 自己評価 65.6% 学校関係者評価 53.1%) ※H27 年度実績は H29 年 3 月下旬に公表予定	△ (注2) 平成 26 年度実績は、財務情報及び学校関係者評価については、計画策定時の実績をそれぞれ 4.2 ポイント、26.0 ポイント上回ったが、自己評価については、計画策定時の実績を 11.5 ポイント下回った。

(注1) 財務情報については、平成 26 年度実績を記載 (平成 27 年度実績は、平成 29 年 1 月末に公表予定)。

(注2) 目標に対する平成 26 年度実績の進捗状況を記載。

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績 (計画策定時)	H27 年度実績	点検結果	
○指標 9 府立高校 3 年生のうち英検 準 2 級相当以上の割合	30%をめざす	25.8%	31.3% [H26 年度実績 27.2%]	◎	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績より 5.5 ポイント上回った。
○指標 10 ・府立高校の英語教員のう ち、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有 する割合	60%をめざす	42.5%	48.0% [H26 年度実績 48.6%]	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 5.5 ポイント上回った。
・府立高校の英語教員のう ち、英検 1 級、TOEFL iBT80 点、TOEIC 1,190 点(SW 含む)、 IELTS 6.5 以上を保有する割 合 (注)	20%をめざす	14.0% [H26 年度実績]	16.4% [H26 年度実績 14.0%]	○	平成 27 年度実績は、H26 年度実績 を 2.4 ポイント上回った。
○指標 11 公立・私立高校卒業者の就職 率(就職者の就職希望者に対 する割合)	全国水準をめざす	93.3% (全国 : 95.8%)	94.5% (全国 : 97.7%) [H26 年度実績 94.7% (全国 : 97.5%)]	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績より 1.2 ポイント上回ったが、 全国平均との差は 2.5 ポイントか ら 3.2 ポイントに拡大した。
・府立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合) 【基本方針 2 (2) 指標 13 の再掲】	全国水準をめざす	93.2% (全国 : 95.8%)	94.0% (全国 : 97.7%) [H26 年度実績 93.7% (全国 : 97.5%)]	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 0.8 ポイント上回ったが、 全国平均との差は 2.6 ポイントか ら 3.7 ポイントに拡大した。
・私立高校卒業者の就職率 (就職者の就職希望者に 対する割合) 【基本方針 2 (3) 指標 20 の再掲】	全国水準をめざす	92.1% (全国 : 93.9%)	93.6% (全国 : 97.5%) [H26 年度実績 95.6% (全国 : 97.3%)]	△	平成 27 年度実績は、計画策定時の 実績を 1.5 ポイント上回り、全国 平均との差も 3.9 ポイント縮小し た。

(注) 平成 26 年度より、英語力の底上げのため、短期集中研修など英語科教員の指導力を高める事業を実施していることから、教員の英語力を測る指標を新たに設けた。

【自己評価】

- ① 就学セーフティネットの観点から、意欲あるすべての子どもが高校教育を受けることができるよう、公私あわせて高校への就学機会を確保します。
 - ・高校の授業料無償化や奨学金制度により、公私を問わず自由に学校選択できる機会を保障し、昼間の高校への進学率が計画策定時に比べて上昇するとともに、私立高校へ進学する割合も無償化制度導入前と比べて増加した。

- ② 公私ともに学校情報についての公表・公開をすすめ、生徒が十分な情報のもとで自らの入りたい学校を主体的に選択できる環境づくりをすすめます。
 - ・府立高校については、「大阪府公立高等学校・支援学校検索ナビ（咲くナビ）」の運用など広報活動に取り組んだ。学校教育自己診断及び学校協議会について公表した府立高校の割合は、個別の指導を強化した結果、目標値の 100%を達成した。
 - ・私立高校については、情報未公表の場合は、私立高校に対する経常費補助金の配分において減額要素としており、各私立高校での情報の公表が進んだ。なお、平成 26 年度の自己評価については計画（P）と取組み（D）の関連性を精査する等、不十分な学校は未公表に区分した結果、公表状況は下がった。引き続き、学校情報の公表に努めるよう働きかけていく。

- ③ グローバル社会で活躍できる人材や、厳しい雇用環境の中であって社会で活躍できる人材を育成するため、公私が切磋琢磨しつつ共同での取組みをすすめます。
 - ・英語教育については、公私ともに様々な学校から、英語の技能を伸ばしたいという意欲ある生徒が参加する特訓クラスや、「オールイングリッシュ」で行う授業のノウハウを学ぶ教員向けの短期集中教員研修を実施し、府立高校 3 年生のうち英検準 2 級相当以上の割合は、目標値の 30%を達成した。一方、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点以上を保有する府立高校の英語教員の割合は、ほぼ横ばい（前年度比 0.6 ポイント減）となり、改善の方策を検討しているところである。引き続き、生徒の英語力の底上げのために必要な英語科教員の英語力の向上に努めていく。
 - ・キャリア教育については、公立・私立高校卒業者の就職率が、全国平均に比べると依然、低位にある。また、平成 26 年度から取り組んでいる「キャリア教育支援体制整備事業」において、就職支援コーディネーター、スクールソーシャルワーカーを配置した対象校で、平成 27 年度の就職内定率が平成 26 年度と比較して 1.0 ポイント減少している。これは、キャリア教育の取組みにより、生徒の就労意欲を高めることで就職希望者が増加したものの、明確な職業イメージを持たすまでにはいならず、また生徒の希望と職種がマッチングしなかったため、内定率を上昇させるまでにはいかなかったことによるものである。引き続き、就職支援コーディネーター等と連携し、対象校における校内体制の強化を図り、キャリア教育の充実に努めていく。

【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は概ね妥当である。

【基本的方向①について】

- ・「奨学金制度の運営・運用（具体的取組 17）」について、子どもの貧困が指摘される中で、より奨学金制度の周知、活用をしていくことが必要である。

【基本的方向②について】

- ・「学校情報の公表状況（指標 8）」の府立高校の公表状況が、100%となったことについては、取組みの成果であると考えており、今後は、公表している内容について考察する段階になったと思う。
- ・「学校情報の公表状況（指標 8）」の私立高校の公表状況については、数値が2年連続で伸び悩む結果となっている。経済的状況によらず私立高校に行きやすくしている大阪府の授業料無償化制度は、評価できる。しかし、他府県の私立高校とも競っていくためには、必要な情報の開示が重要であり、公表状況の改善が必要である。今後、公表開示等の状況をあげていくために、公表することによって成果を上げた学校が、どのような取組みをしているのかを共有するなどの仕組みが必要である。

【基本的方向③について】

- ・「府立高校3年生のうち英検準2級相当以上の割合（指標 9）」について、年々取得生徒の割合が増えていることは非常に評価できる。一方、教員の資格保有が進まないことは課題であり、さらなる取組みが必要である。

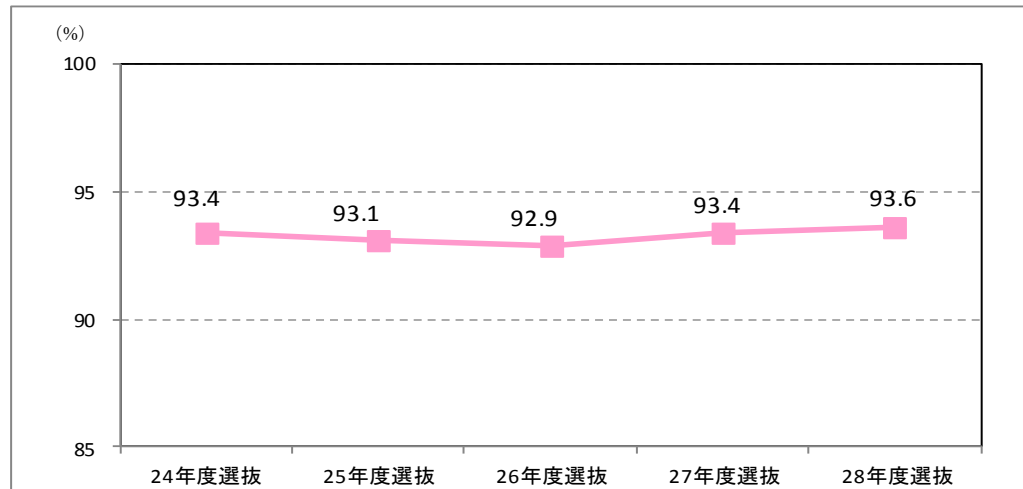
○補足意見

【基本的方向③について】

- ・「府立高校の英語教員のうち、英検準1級、TOEFL550点、TOEIC730点以上を保有する割合（指標 10）」について、数値が前年度から若干下がっている。大阪府では英語教育を重点に取り組んでいるので、例えば、他府県との比較やその分析を併せて記載することも必要ではないか。

(参考)

◆指標 7 昼間の高校への進学率

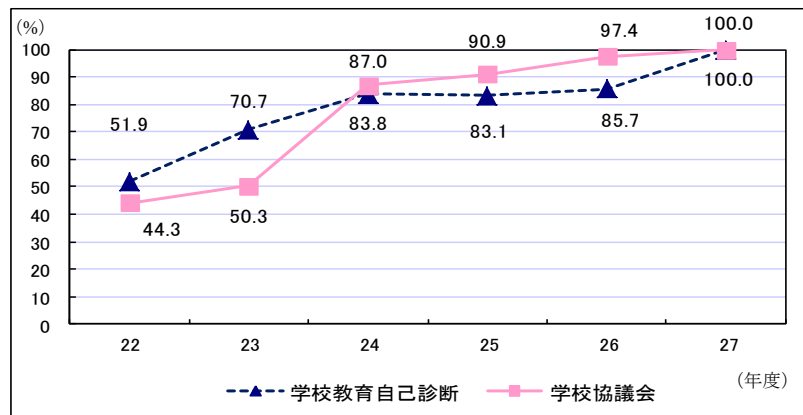


※府教育庁調べ

※28年度選抜…H27年度に実施したH28年度入学者の選抜

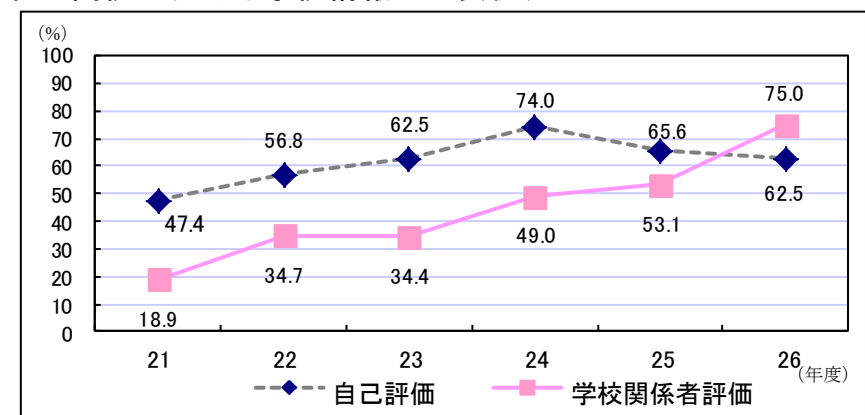
◆指標 8 学校情報の公表状況

府立高校における学校情報の公表状況



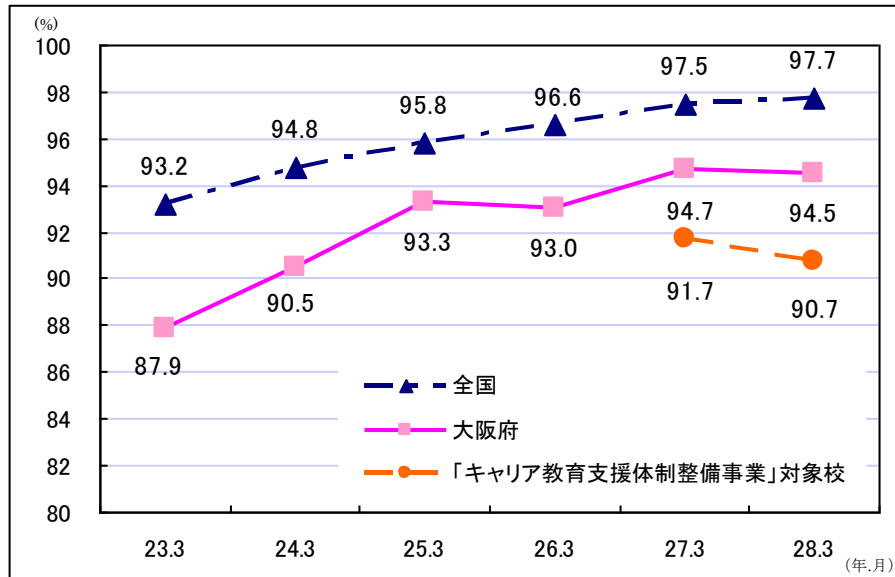
※府教育庁調べ

私立高校における学校情報の公表状況



※府教育庁調べ

◆指標 11 公立・私立高校卒業者の就職率
(就職者の就職希望者に対する割合)



※府教育庁調べ及び文部科学省「高等学校卒業者の就職状況調査」

※「キャリア教育支援体制整備事業」

対象校 39 校 (府立高校 34 校、私立高校 5 校 ※H27 年度)